

# 馬主だより

第76号

平成28年1月22日

発行 (一社)ばんえい競馬  
馬主協会事務局

## ☆ 帯広市単独開催以降最高額の昨年度 132 億円を上回るペース ～ 発売額更新 収益も過去最高なるか期待高まる！！ ～

▼大寒も過ぎ、凍てつく寒さが一段とこたえる時期になりました。2016 年新しい年と共に「今年こそは！」と何か事を始めるに当たり、ありがちですが目標や抱負を紙に書き出すことからスタートしてみます。皆様にとりまして、ますますご健勝にて充実した一年をお過ごしくださいますよう心よりお祈りいたします！！▼さて、お正月開催も順調に発売額を伸ばしました。インターネットや電話投票による発売額の顕著な伸びが後押しし 1 月 18 日時点では前年同期比 13.9%増で帯広市単独開催となった 2007 年度以降最高額の昨年度の 132 億 1,834 万円を上回るペースで推移している。▼昨年 12 月には、発売額の増加に伴い、当初の見通しより払戻金や手数料も増え、予算どおりの執行が困難になることから、定例市議会に補正予算を提案した。これによって発売額の当初予算 123 億円(1 日平均 8,092 万円)から補正後予算 135 億円(1 日平均 8,882 万円)を見込んでおります。▼現状の好調さを堅持し更に発売額を伸ばして収益(黒字額)も過去最高額を視野に…期待は高まります！！

### 平成 27 年度 ばんえい競馬 発売成績(総額)

開催 123 日間

帯広市ばんえい振興室資料提供

平成 28 年 1 月 18 日終了時

区 分	発 売 金 額							
	平成27年度			平成26年度		対 比		
	日 数	発売額	予算額	日 数	発売額	予算	前年	
本 場	123	1,198,324,500	1,188,751,600	123	1,235,697,800	100.81	96.98	
直 営 場 外	旭川北彩都	123	651,260,500	663,636,900	123	751,613,100	98.14	86.65
	ミンスポット北見	123	295,322,300	284,585,500	123	301,749,200	103.77	97.87
	ハロンス岩見沢	123	204,601,200	205,947,700	123	220,874,200	99.35	92.63
	ハロンス釧路	123	91,286,800	87,354,500	123	95,801,200	104.50	95.29
	ハロンス名寄	123	89,724,800	87,814,800	123	108,649,800	102.18	82.58
	アプスポット網走	123	71,321,900	71,673,300	123	103,423,700	99.51	68.96
	琴似駅前	123	122,449,900	116,283,000	123	107,797,500	105.30	113.59
	イルムふかがわ	123	96,955,600	95,864,700	123	100,266,400	101.14	96.70
電 投	オッスパーク	123	3,894,441,200	3,826,666,400	123	3,394,500,900	101.77	114.73
	OP(七重勝)	123	46,738,400	38,363,300	123	31,780,500	121.83	147.07
	OP(五重勝)	123	45,873,700	31,419,000	123	25,010,900	146.01	183.41
	競馬モール	123	3,086,032,800	2,907,463,400	123	2,245,301,400	106.14	137.44
	SPAT4	39	765,166,100	681,456,300	42	552,128,300	112.28	138.58
広域場間場外	—	1,072,276,200	1,015,031,000	—	1,022,007,800	105.64	104.92	
場外・電投計	—	10,533,451,400	10,113,559,800	—	9,060,904,900	104.15	116.25	
合 計		11,731,785,900	11,302,311,400		10,296,602,700	103.80	113.94	
1日平均	123	95,380,373	91,888,711	123	83,712,217	103.80	113.94	

平成 27 年度該当開催(ばんえい競馬第 1 回 1 日目～第 21 回 6 日目まで 123 日間)

平成 26 年度該当開催(ばんえい競馬第 1 回 1 日目～第 21 回 5 日目まで 123 日間)

## 会議等の様子

### ○ 平成27年度第4回執行役員会開催！

平成27年12月19日(土)当協会事務局会議室において、平成27年度第4回執行役員会を開催致しました。

当日、午後から開催される第3回理事会に先立ち、執行役員において事前協議を行いました。この度の不祥事案発生に伴い、帯広市から「ばんえい競馬で今後予定しているイベント・広報関係の事業については、全て凍結、辞退させていただく。」との見解が示され、関係団体で計画している関連の事業等についても、当面の間については基本的に自粛、中止、見直しするよう要請がありました。

これを受けて当協会は、お正月イベントとして1月2日、3日の二日間で計画していた恒例の新春初夢抽選会を中止することを決定し、これに伴う措置について協議しました。

また、当協会冠競走として平成28年1月24日(日)に予定している「第26回ヒロインズカップ」に対する協賛レースについては、当初の計画とおり実施する事を確認しました。

その他に、マイナンバー制度導入に伴う個人番号の取得方法や保管管理方法等の準備状況について報告。協会としては、個人情報外部に漏れいしないよう、最善の注意を払いその管理に万全を期するための環境を整備するとともに規定等の整備も必要になる旨を併せて報告し、今後の対応について協議しました。

#### 【執行役員会議事】

- (1) 平成27年度第3回理事会議案
- (2) その他
  - ① 初夢抽選会中止に伴う措置について
  - ② マイナンバー導入準備チェックリスト
  - ③ 当協会冠競走(第26回ヒロインズカップ)協賛について
  - ④ 次回理事会の開催について

### ○ 第3回理事会を緊急招集！！

#### ～帯広市から事案発生の経緯と対応について説明！～

平成27年12月19日(土)当協会事務局会議室において、平成27年度第3回理事会を開催致しました。

平成27年12月11日、ばんえい競馬きゅう舎関係者による競馬法違反の疑いで関係者への捜査が入った事案が発生した事を受けて、緊急理事会を招集し帯広市から経緯と今後の対応について説明を伺いました。

理事会では、2016年お正月に計画していたイベント「新春初夢抽選会」について、これまで準備を進めて参りましたが、この事案発生の影響により帯広市からの要請も踏まえて、最終的には執行役員会において中止せざるを得ないとの判断を下し、理事者に報告致しました。

その他協議案では、馬主のきゅう舎構内への出入りについて、従前同様の措置ではございますが、入きゅう禁止時間遵守を徹底するよう改めて各会員に通知することになりました。

次に装蹄料金については、北海道地方競馬装蹄師会から料金の大幅改定の要請があり、当該理事会に於いて協議の結果、諸般の事情をも考慮し平成 28 年 1 月 1 日より尋常、刻み蹄鉄ともに一律千円の上げ幅に抑え増額を認める事に決定しました。

注1

また、平成 27 年度のブロック懇談会開催についてそれぞれ協議致しました。

注1：改定後の装蹄料金及び蹄の健康保持・保護措置に関する料金基準については、別紙のとおりとなっておりますのでご参照ください。

### 【第3回理事会議事】

日程1	報告第1号	2016年お正月イベント「初夢抽選会」の中止について
日程2	協議案第1号	きゅう舎構内の出入りについて（通知案）
日程3	協議案第2号	装蹄料金の改定通知について
日程4	協議案第3号	平成27年度ブロック懇談会の日程調整及び懇談事項について
日程5	その他	① 平成27年度内国産農用種雄馬購買予備選抜結果 ② 第4回理事会の予定

## 情報・ご案内

### ○ 競馬法違反の疑いによる捜査事案 米沢市長が議会に説明

#### ～帯広市議会審査特別委員会で経過、対応を報告する～

平成 27 年 12 月 14 日に開催された帯広市議会議案審査特別委員会で、ばんえい競馬の騎手、きゅう務員らきゅう舎関係者が違法に馬券を購入していたとされる問題で、米沢市長は「全国の多くのファン皆様の信頼を裏切る行為であり、誠に遺憾。」と述べ「再発防止に取組み、信頼回復に努める。」と強調した。

また、当該委員会の冒頭で経緯を説明。「きゅう舎関係者が馬券を購入しているとの匿名の情報を帯広市が受け、11月に業務委託する馬券購入サイトの運営会社に調査を依頼。本人名義の購入履歴が確認されたため帯広署に情報提供し、併せて購入が確認されたきゅう舎関係者の業務を停止した。」と述べた。

その上で、「帯広署に徹底的な捜査を依頼した。捜査結果を踏まえ、関係者への厳正な処分をしたい。」と説明した。

競馬法では、八百長などの不正防止の観点から地方競馬の調教師、騎手、きゅう務員らは他都市の開催であっても地方競馬の馬券を購入する事を禁じている。

### ○ 「ばんえい記念」・「帯広記念」の両レース“農林水産大臣賞”を返上へ

#### ～個人、企業協賛レース 帯広市協賛予定者に意向確認～

ばんえい競馬の騎手らが馬券を購入したとされる問題に関連して、帯広市は、今年度の帯広記念(平成 28 年 1 月 2 日)とばんえい記念(同 3 月 20 日)に提供される「農林水産大臣賞典」<sup>注1</sup>を返上することを検討。すでに今年度は両レースへの同賞提供を申請し承認されているが、市は申請の取り下げを行った。

また、個人や企業による協賛競走については、協賛予定者に改めて協賛の意向について確認調査している。

帯広市ばんえい振興室は「今回の件について関係者全員が責任の重大さを認識し、襟を正したい」としている。

注1：同賞は農林水産省が中央・地方競馬の主要レースに提供する。

ばんえい記念は1968年に「農林水産大臣賞典」として創設され、98年にばんえい記念と改称された。ファンにとっても、最高重量トンのソリを引く最高峰の一戦として人気が高い。また、帯広記念はばんえい記念に次ぐ格式あるレースとして知られている。両レースはともにばんえい最高峰の「BG1」に位置する。

## ○ “2016年”ばんえい競馬お正月開催 祝賀イベント一部自粛 ～入場者数1割減るも 発売額好調前年を上回る！！～

今年のばんえい十勝お正月開催は、元日から5日までの5日連続開催を実施。昨年12月に発覚した騎手らの馬券購入問題を受け、祝賀イベントの一部を自粛。2日の帯広記念では、帯広市が農林水産大臣賞典を農水省に取り下げするなどしてレース自体は実施しました。

お正月開催5日間の発売額はこれまで以上に好調で、7億4,642万円(前年対比127.24%)、その中でも「帯広記念」(BG1)が行われた2日の売り上げは、1億9,498万円となり、単独開催初年度同日(2008年)の売り上げ1億9,658万円に次ぐ額となりました。

一方、帯広競馬場の入場者数は、9,148人(89.92%)と前年より一割程度減った。

## ○ “NARグランプリ2015”表彰馬、表彰者決定！ ～ばんえい最優秀馬 キタノタイショウ号受賞す！！～

地方競馬全国協会は、平成28年1月12日(火)、2015年に国内地方競馬で活躍した人馬を表彰する“NARグランプリ2015”の表彰馬、表彰者を決定致しました。

地方競馬年度代表馬には、交流GⅡ浦和記念(Jpn2)を制したほか、GIでも3着2回の実績を残したハッピープリント(大井競馬場所属・森下淳平きゆう舎、牡4歳)が2年ぶり2度目の受賞となった。

また、地方競馬出身で、94年にJRAの桜花賞を制したオグリローマン(15年3月に死亡)が特別表彰馬に選ばれた。

“ばんえい最優秀馬”は、昨年ばんえい最高峰のばんえい記念を制し、その後重賞の北見記念も勝ったキタノタイショウ(牡9歳、服部義幸きゆう舎)が受賞しました。おめでとうございます！！

<キタノタイショウ号のプロフィール> ※2016年1月12日現在

生年月日:2006年5月2日(牡10歳)

血統:父 ダイヤキンショウ 母 優奈(母父 タカラフジ)

生産者:衣原 国雄(北海道中川郡豊頃町)

馬主:木下 英三

厩舎:服部 義幸 きゆう舎

通算成績:190戦41勝(うち重賞12勝)

重賞勝鞍:2015年 ばんえい記念、北見記念

## ○ 日本馬事協会購買内国産農用種雄馬 2頭決定！！

### ～インフィニティー号十勝へ、ホリセンショウ号釧路へ配置予定～

平成 27 年度公益社団法人日本馬事協会が実施する内国産農用種雄馬購買につきましては、平成 28 年 1 月 12 日(火)帯広競馬場において、それまでに予備選抜されている購買候補馬2頭の中から最終検査を経て、インフィニティー号とホリセンショウ号の2頭が選定され、同日、各馬主と日本馬事協会との間で売買契約が成立致しました。

なお、購買馬2頭の引き渡しにつきましては、平成 28 年 3 月 22 日(火)帯広競馬場に於いて行われる予定です。

#### 【平成 27 年度公益社団法人日本馬事協会購買選定馬】

購買馬名	年齢	クラス (万円未満)	馬主	配置先団体
インフィニティー	10	オープン	駒井 鉄雄	十勝農業協同組合連合会
ホリセンショウ	11	オープン	田山 勝廣	釧路農業協同組合連合会

## レース情報

### ○ 重賞競走の結果

月日	重賞名	馬名	馬主	調教師
12月20日	第44回 ばんえいダービー	センゴクエース	千石 貞子	槻館 重人
12月28日	第17回 ヤングチャンピオンシップ	ホクショウディーブ	井内 昭夫	皆川 公二
1月2日	第38回 帯広記念	オレノココロ	大森 勝廣	槻館 重人
1月3日	第9回 天馬賞	キサラク	青山 修	金田 勇

**優勝おめでとうございます！！**

#### ◆ 第44回ばんえいダービー（3歳オープン）

単勝 1.5 倍の断然人気に推されたセンゴクエースが優勝。ばんえい菊花賞に続く二冠を制し、3 歳世代の頂点に君臨しました。

注目はやはりセンゴクエース。これまで 3 歳馬同士では無敗を誇っており、前走も古馬重賞級を相手に 5 着に健闘。同世代では一枚上の存在で、定量戦のここは、どう勝つかが焦点となりました。1.7%の馬場水分のなか、ゲートが開きました。

ダッシュ良く飛び出したのはタキニシサンデーとセンゴクエース。ホクショウモモもこの一角で、コウリキ、キンメダルも差なく追走します。とはいえ、各馬離れず追走し、集団のまま第 2 障害を迎えました。

最初に動いたのはホクショウモモとタキニシサンデーで、即座にキンメダルとセンゴクエー

スが反応します。しかし、タキニシサンデーとキンメダルはヒザを折ってしまい苦戦。さらにホクショウモも天板付近で脚を止めてしまいます。そうしたなか、ひと腰でクリアしたのがセンゴクエース。立て直したキンメダルが、やや遅れて2番手で突破。さらに遅れてホクショウモが3番手で続きます。

ただ、3頭の差はどこまで行っても詰まらず、むしろ差は広がるばかり。先頭に行くセンゴクエースに至ってはなおさらで、危なげない脚どりでゴールを目指します。そして残り10メートルを切ったあたりで勝負は決し、大きなリードを保ったままゴールしました。2番手を追走していたキンメダルはしまい苦しくなり、ゴール線上でストップ。その間隙を突いてコウリキ、シリウスが鋭く追い込み、きわどい勝負となりましたが、結果、立て直したキンメダルがわずかに0秒1差で先着。3着にはコウリキが入線しました。

圧倒的な力を見せつけて世代チャンプの座に就いたセンゴクエース。父ウンカイ、母サダエリコという血統背景を武器に、これで世代限定戦では11戦無敗。ばんえい大賞典で競走除外となり、父子三冠という偉業は成し得なかったですが、父、母、子でばんえいダービーを制す金字塔を打ち立てました。障害を難なく越えたレースぶりに成長も見られ、世代限定重賞では今後も破竹の勢いを見せつけるに違いありません。

キンメダルは積極的なレースを展開して2着。真っ向勝負を挑んだぶん、最後は苦しくなりましたが、このレースは大きな経験となるでしょう。ただ、振り返ればイレネー記念、ばんえい菊花賞、ばんえいダービーのすべてで2着。世代上位の力があるのは確かで、悲願の金メダルを獲得するチャンスはいくらでもあるでしょう。

コウリキは障害6番手から猛然と追い上げての3着。しかもキンメダルとは0秒1差だけに、中身の濃い内容でした。馬場や展開次第で、今後もタイトル奪取が期待できそうです。

## ◆ 第17回ヤングチャンピオンシップ（2歳産地選抜）

単勝1番人気のホクショウディーブが優勝。ここまで5連勝中の勢いそのままに、初タイトルを手に入れました。

5連勝中と充実一途のホクショウディーブが1番人気。ナナカマド賞馬フウジンライデンは610キロと他馬より重量を課せられましたが、地力を信頼されて2番人気の支持を集めました。以下、青雲賞勝ちなど4連勝中のムサシブラザー、デビューから5連続連対をマークし、ここへ来て復調気配を示すキタリュウキと続きました。全馬未知となる600キロ前後の荷物がつながれ、ゲートが開きました。馬場水分1.6%ながら、道中はハイペース。横一線で第1障害を突破し、その後も各馬並んだまま中間点へ。ムサシブラザー、ホクショウディーブあたりが若干リードしはじめ、イレマルビリーヴ、キタリュウキもこれを追走。ただ、他馬も差なく第2障害下にたどり着き、混戦模様を呈したまま勝負どころを迎えました。

真っ先に仕掛けたのはムサシブラザーで、スーパータイホウもこれに反応。しかし2頭とも苦戦し、その間隙を突いて4、5頭が一気に仕掛けます。中でも抜群の登坂を見せたのがホクショウディーブで、ひと腰で障害を突破します。立て直したムサシブラザーが差なく続き、さらにアラワシキング、ツルイテンリュウ、スーパータイホウ、イレマルビリーヴ、キタリュウキも圏内でクリア。勝負の行方は末脚勝負に持ち込まれました。

ただ、ここでもホクショウディーブが強さを発揮。みるみるうちに他馬を突き放しにかかり、残り20メートルを切ってからさらに加速します。その脚いろはまったく衰えず、圧倒的なレースぶりで重賞初制覇を果たしました。障害を下りてから2番手に浮上したツルイテンリュウが、最後までしぶとい粘りを見せて2着。ジワジワと脚を伸ばしたキタリュウキが3着で入線しました。

勝ったホクショウディーブは、これで6連勝。切れのある登坂を見せたうえ、ゴール前の平坦路でも卓越したスピードを発揮しました。このレースぶりなら世代の頂点は目前。状態さえ整っていれば3月のイレネー記念でも最有力でしょう。

障害を越えてから抜群の反応を示したツルイテンリュウが2着。その軽快な脚いろのみな

らず、最後まで粘り通した勝負根性に見どころがありました。よりパワーが求められる馬場になれば、タイトル奪取のチャンスがありそうです。

#### ◆ 第38回帯広記念（4歳以上オープン）

単勝4番人気のオレノココロが優勝。初めての900キロ台を克服し、古馬重賞戦線の主役に名乗り出ました。

混迷の古馬戦線を象徴するように、オッズは割れ加減。ただ、全体的には高重量戦での信頼感という観点からニュータカラコマ、キタノタイショウ、インフィニティーなどの実績馬が有利と見られた印象です。これに910キロを課せられたオレノココロが、どう対峙するか。馬場水分1.9%のなか、スタートが切られました。

道中はインフィニティーとホクショウユウキ、ホリセンショウがペースを握りますが、高重量戦だけあって、各馬とも慎重。一進一退の攻防を繰り返しながら、ゆったりと歩を進めます。ほぼ横一線のまま推移しましたが、わずかにインフィニティーとホリセンショウが第2障害に到達。やや遅れて、他馬も並んで障害下にたどり着きました。

最初に動いたのは先行した2頭、インフィニティーとホリセンショウ。しかし、思ったほど馬体は上がり苦戦を強いられます。その間にコウシュハウカイ、ホクショウユウキ、ニュータカラコマ、キタノタイショウが仕掛け、他馬も遅れまじと続きます。なかではニュータカラコマが最初に天板に脚をかけたのですが、ヒザを折ってしまい仕切り直し。それでも即座に立て直し、先頭で障害を突破します。やや遅れてホクショウユウキ、インフィニティーが続き、オレノココロ、トレジャーハンター、キタノタイショウ、ホリセンショウ、そしてフジダイビクトリーと、各馬が次々と障害を下りていきました。

先頭で障害をクリアしたニュータカラコマでしたが、ヒザ折りの影響もあったのか、その脚どりは鈍く、残り30メートル付近で早くも吸収。代わって先頭に立ったのはオレノココロで、キタノタイショウ、ホクショウユウキも軽快な脚どりでニュータカラコマをかわしていきます。しかし、先頭に立ったオレノココロは、さらにたたみかけるようにして加速。リードを一気に広げて残り10メートルを通過します。そしてゴール線上でいったん脚を止めたものの、余裕は十分。しっかりと立て直し、先頭で荷物を運び切りました。ジワジワと脚を伸ばしたキタノタイショウが2着。3着争いが激戦で、3番手を進んでいたホクショウユウキはゴール手前でストップ。いったんフジダイビクトリーとインフィニティーにかわされましたが、今度は2頭がゴール寸前で脚を止めてしまいます。その際にホクショウユウキが滑り込み、3着を確保しました。

前走のオープンこそ5着に敗れたオレノココロでしたが、ドリームエイジカップ制覇の勢いは止まっていませんでした。なにより900キロ台の重量を克服できたのは収穫で、ばんえい記念も含めた今後の重賞戦線でも注目の存在となるでしょう。

キタノタイショウは前走のオープンに続く2着で、復調気配がうかがえます。昨シーズンのばんえい記念を制していることから、パワー勝負は望むところ。そう簡単に王座を明け渡すことはないでしょう。

3着のホクショウユウキも地力強化は明らか。昨季の岩見沢記念以来となるタイトル奪取も、十分に期待できそうです。

#### ◆ 第9回天馬賞（5歳オープン）

単勝2番人気のキサラクキが優勝。昨年のばんえいオークス馬が牡馬を押し分け、世代の頂点に君臨しました。

昨シーズンのチャンピオンカップ3着をはじめ、近況も古馬オープンを相手に互角の立ち回りを見せているハクタイハウが圧倒的な1番人気。これに続いたのが牝馬キサラクキで、銀河賞2着のカンシャノココロが3番人気。以下はやや離れたオッズで、上位3頭による争いという事前ジャッジ。実績馬による順当な決着か、伏兵の台頭はあるのか。馬場水分1.7%で、ゲートが開かれました。

道中はカンシャノココロとハクタイホウが馬群をリード。他馬もほぼ横一線で続き、一進一退の攻防。ただ、第2障害を前にハクタイホウ、カンシャノココロ、アアモンドセブン、シンザンボーイが若干抜け出し、4頭が並んで障害下へ。他馬はやや遅れて到着し、勝負どころでの逆転にかけます。

真っ先に仕掛けたのはハクタイホウ。ひと呼吸置いてアアモンドセブン、カンシャノココロ、シンザンボーイも登坂を開始します。しかし、ハクタイホウがヒザを折るなど、4頭は苦戦。その間に他馬が仕掛け、なかでもキサラキク、カイスンゲキ、ホクショウメジャーなどが抜群の登坂を見せ、障害を突破します。立て直したハクタイホウ、シンザンボーイもほぼ同時で、カンシャノココロも若干の遅れで追撃態勢に入りました。

この6頭のなかでも、しっかりと脚いろを見せたのがカイスンゲキとハクタイホウ、そしてキサラキクの3頭。横に並んだ状態で30メートルを通過します。そこからさらに加速したのがキサラキクで、残り10メートル標識でもきっちり脚を伸ばします。ゴール前では多少スピードが鈍ったものの、リードは十分。そのまま先頭で荷物を運び切りました。2着争いが際どくなり、なんとかリードを保っていたハクタイホウがゴール前でストップすると、カイスンゲキも脚を止めてしまいます。そこへカンシャノココロとホクショウメジャーが急襲。止まった2頭も懸命に立て直し、結果はハクタイホウが先着。カンシャノココロが3着で入線し、以下ホクショウメジャー、カイスンゲキという結果になりました。

勝ったキサラキクはこれまでイレネー記念3着、ばんえい菊花賞、ばんえいダービーでも2着がありましたが、牡馬相手の重賞を制したのは今回が初めて。ただ、ゴール前での力強い脚どりからは、貫禄さえ感じられました。今後も牡馬重賞はもちろん、重量次第で牡馬相手でも好勝負になりそうです。

惜しくも2着に敗れたハクタイホウですが、堅実なレース運びは健在。デビューから【17・18・8・10】と相手なりにレースができる印象で、今後、古馬との対戦になっても軽視できない存在です。

カンシャノココロはなかなかタイトルに手が届きませんが、地力の高さは証明済み。さらなる成長があれば、重賞制覇のチャンスも巡ってくるでしょう。

※ レース情報の内容につきましては、ばんえい競馬情報局より抜粋しています。